

<配布資料確認・趣旨説明>

○司会



安田理事、ありがとうございました。では、各報告に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。受付において封筒をお受け取りいただきたいかと思えますけれども、中には二つ冊子がございます。一つが分厚めの冊子でありまして「直接評価の実践～基盤力テストの到達点と今後の展望」という表紙のある資料です。そして、二つ目の冊子がこのあと

御講いただきます平野室長作成の「教学マネジメント指針の審議状況について」というものでございます。落丁、不足等ございませんでしょうか。不足等ありましたら、差し替えさせていただきますので、遠慮なくスタッフにお申し付け願います。続きまして、一つ目の分厚い方の冊子を御確認いただき、趣旨説明と配布資料の中身を確認したいと思います。まず、表紙をめくっていただきますと、本日のプログラムがあります。先ほど、安田理事が御案内いたしましたように、大きく午前・午後、三部に分けて実施させていただきます。このプログラムの裏面を見ていただきますと、本日の登壇者、配布資料一覧がございます。そして下側にアンケートのご案内がございますので、終了後に皆様にご回答をお願いいたしたいと思います。3ページ目以降は、このあと我々から話題提供させていただきます資料になります。本日の趣旨は資料の下に1と入っている部分になります。

The slide is titled 'AP事業の構想概要' (AP Program Concept Overview). It features a central diagram showing the flow from '基盤力テスト' (Basic Ability Test) to 'ポートフォリオとディプロマ' (Portfolio and Diploma) and 'ディプロマ・サリメント' (Diploma Supplement). Below the diagram is a table with the following data:

項目	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
学生の履修科目時間 (1単位あたり)	100%	100%	100%	100%
卒業生満足調査の実施率 (卒業生満足度・卒業生満足)	7%	-	10%	15%
基礎力テストの実施率 (受験生/入学後)	11%	60%	100%	100%

At the bottom right, there is a small Yamagata University logo and the page number '1'.

のご案内がございますので、終了後に皆様にご回答をお願いいたしたいと思います。3ページ目以降は、このあと我々から話題提供させていただきます資料になります。本日の趣旨は資料の下に1と入っている部分になります。こちらに投影しておりますように、本シンポジウムは平成28年度に採択いただきました、大学教育再生加速プログ

3つの基盤力の育成—全学DPと関連した基盤力

- 学問基盤力—**自律的に課題に取り組む専門力**
専門知識の体系的習得と実践的な運用体験
総合大学の学際的な強みを生かした応用力の獲得
- 実践地域基盤力—**社会でリーダーシップを発揮する人間力**
力強い学びを保障するキーコンピテンシーの育成
地域課題に挑戦し生涯学び続ける自己学習力獲得
- 国際基盤力—**実践的な英語で多様性に挑戦する国際力**
基盤としての英語力を4技能・専門別に習得
英語PBLの実施、様々な活動を通じた国際理解



基盤力テストの概要

- 学問基盤力テスト
 - 数的文章理解・数学・物理学・化学・生物学
- 実践地域基盤力テスト
 - 5因子性格調査
 - 出欠状況・ポートフォリオ(現存)
 - フィールドワーク・インターンシップ・課外活動実績
- 国際基盤力テスト
 - TOEIC-IP(現在2回実施)
 - eラーニング、留学等国際関係活動実績



報告の構成

1. 学問基盤力テストの分析結果
報告者: 安田 淳一郎(山形大学 学術研究院 准教授)
2. 実践地域基盤力の分析結果
報告者: 白石 哲也(山形大学 学術研究院 准教授)
3. 国際基盤力テストの分析結果
報告者: 浅野 茂(山形大学 学術研究院 教授)
4. 基盤力テストのBIによる可視化
報告者: 藤原 宏司(山形大学 学術研究院 教授)
5. 基盤力テストの今後の展望
報告者: 千代 勝実(山形大学 学術研究院 教授)



ラムのテーマVとして取組を推進しているものでございます。基本的には、学習成果の直接評価ということを念頭に置きながらテストを独自に開発し基盤力という枠組みの中で測定をし、その分析結果を教育改善につなげていくというものであります。このあと平野室長にも御講演いただきますが、昨今、取りざたされている学習成果に直接フォーカスを当てて取り組んでいるものでございます。そして基盤力ということでききますと、山形大学では先ほど安田理事の言及にもありましたように、いわゆる専門的な能力に係る学問基盤力、それから人間力を中心に見ている実践地域基盤力、そして語学力や異文化理解を見ている国際基盤力の三つの基盤力を測定するためにテスト又は様々なデータを活用していくということでもあります。

のちほど詳細を御説明いたしますが、学問基盤力・実践地域基盤力・国際基盤力、それぞれの軸において、こういったことを想定しているということをこちらの資料で示しております。本日、特に時間を割いて御説明させていただきます

ますのは、一番上にあります学問基盤力に関する部分であります。独自にテストを開発し、ようやく入学時・1年次・3年次という形で、一つのコホートのデータが完成しましたので、その成果を含めて話題提供させていただきます。そして実践地域基盤力、国際基盤力テストについてもどのような状況にあるのかというのを御説明いたします。

では、時間の都合もございますので、まずは基調講演として、平野室長にこれから20分ほど、「教学マネジメント指針の審議状況について」と題する御講演をお願いしたいと思います。では平野室長、壇上にご登壇願えますでしょうか。